



## 肉用繁殖牛を含めたヨーネ病法定検査体制への移行について

慢性で頑固な下痢を主な症状とする家畜法定伝染病である**ヨーネ病**は、国内で毎年500頭から800頭の患畜が摘発されており、その**約4割**を肉用牛が占め、**肉用繁殖牛へのヨーネ病の侵入リスクは乳用牛とほぼ同等**と考えられています。

島根県内で飼育する乳用牛は3年に1度の間隔で、家畜伝染病予防法第5条の規定による結核病、ブルセラ病およびヨーネ病の検査を**有料**で従来から行ってきました。

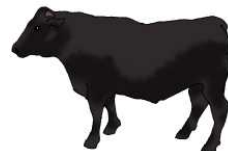
全国的に肉用繁殖牛のヨーネ病検査が有料で実施されつつあり、**島根県産和牛の清浄性を担保し、維持する必要**があることから

**平成29年度から、肉用繁殖牛についても家畜伝染病予防法に基づいたヨーネ病の法定検査（有料）を開始予定**です。

### 【平成29年度からの検査対象および変更点】

#### 肉用繁殖牛（新規）

- ・検査対象：繁殖の用に供し、又は供する目的で飼育している肉用雌牛
- ・検査間隔：「**5年**に1度」
- ・検査対象月齢：「**生後24ヵ月齢以上**」
- ・検査疾病：ヨーネ病のみ
- ・方法：採血による抗体検査



#### 乳用牛（変更）

- ・検査対象：搾乳の用に供し、又は供する目的で飼育している雌牛
- ・検査間隔：「**5年**に1度」へ変更
- ・検査対象月齢：「**生後24ヵ月齢以上**」へ変更
- ・検査疾病：結核病、ブルセラ病およびヨーネ病（変更無し）
- ・方法：採血による抗体検査（ブルセラ病、ヨーネ病）  
ツベルクリン検査（結核）

### 【今後の予定】

来年度より、管内を5地域に区分して5年をかけて一巡し、清浄性の確認を行うこととされています。

肉用牛繁殖牛飼養者のみなさまにとっては新たな取り組みであるため、研修会や座談会等を通して説明を行う予定です。

**ご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。**  
**ご不明な点がございましたら、家畜保健衛生所までご相談ください。**



## 暑熱対策について

今年は残暑も厳しいといわれています。暑熱対策を実行しましょう！

### <牛・豚の対策>



#### ① 効果的な送風・換気

- 風速1mの風で、体感温度は6℃下がると言われています！
- 牛は肩から首にかかる部位が最も涼しさを感じます！（扇風機の角度をやや下向きに）
- 扇風機のクモの巣を取り除くと、驚くほど風量が回復します！
- 気温の下がる夜間は体温を低下させるチャンス、続けて送風・換気をしましょう！
- 換気は畜舎内のアンモニア濃度（ストレス源）の低減、カビの繁殖防止に効果があります！

#### ② 空気の冷却

- 遮光ネット等による直射日光の遮断や、屋根への散水で、かなりの効果が得られます！  
\* 屋根や壁への白色塗料、断熱塗料、石灰などの塗布も効果があります。
- 細霧とファンやダクト送風を併用すると畜舎内に霧が流入し、体感温度を下げます！  
\* ただし、細霧装置による散水は湿度を上昇させるので、十分な送風を行きましょう。

#### ③ 新鮮な水をたっぷり給与

- 冷たい水を与えると、体内で熱を奪ってくれます！（水のエネルギーは意外と大きいのです）
- 水を清潔に保ち、十分量の新鮮な水が飲めるようにしましょう！

#### ④ 飼料給与の工夫

- 食欲の落ちる夏場の粗飼料は、高品質なものを給与しましょう！（もちろん飼槽は清潔に）  
\* カビは肝機能を低下させます。夏バテで疲れている時には肝臓の負担を少しでも減らしましょう。
- 涼しくなる夕方～夜間の給与や、給与回数を増やすことで、採食量減少を抑えましょう！
- ビタミン・ミネラルを補給しましょう！（ビタミンA・E剤の投与、鈣塩）  
\* 暑い時期はビタミン類の損失量が増加します。（一番暑い時期で平常時より2～3割増しで）  
\* ビタミン剤は繁殖成績の向上にも効果が見込まれます。
- 牛は、暑いと第一胃が異常発酵する場合があります。（第一胃改善剤や生菌生剤などで予防）  
\* 外も暑い、体の中も暑いでは、牛もたまったものではありません。

その他...



#### ⑤ ドロップクーリング

ペットボトルに水を凍らせ、フタに極小さな穴を開け、首筋に水滴がかかるようにつるします。首元が冷えて体感温度が低下します。分娩・哺乳中の母豚や繋ぎの牛に有効です。

#### ⑥ 毛刈り(牛)

バリカンで全身の毛を短く刈ってやることで、体表面の熱放散が促進されます。

手間はかかりますが、体温が約0.5℃下がるとも言われています

\* 夏分娩予定の牛や、泌乳ピークを迎える牛を優先的に実施するとよいでしょう。



## ⑦ 削蹄(牛)

蹄が悪いと休む時間が長くなり、お腹の下から放熱されず、ますます暑くなります。  
削蹄で寝起きが快適にできるようにしましょう。

## ⑧ 飼養密度(豚)

密飼いを避けましょう。



### 熱射病かな?と思ったら

- <症状>
- ・元気がなくなり食欲がとまる、反芻の停止(牛)
  - ・体温上昇(41~42℃)
  - ・呼吸数の増加(通常は、子牛で1分間で20~50回、母牛で15~30回くらい)  
\*手を濡らして鼻先につけてみると呼吸数はわかります
  - ・心拍数の増加(通常は、子牛で1分間に90~120回、母牛で60~90回くらい)
  - ・不安興奮、麻痺、失神などの症状
  - ・目の落ちくぼみなどの脱水症状
- <処置>
- ・すぐに診療獣医師に連絡し、到着までに応急的な処置を行ってください。
  - ・体に20~30分水をかける
  - ・十分に水を飲ませる
  - ・扇風機で風をあてる

### <鶏の対策>

鶏は汗腺を持たないため、体温調節が大変難しい動物です!



#### ① 鶏舎内の温度・換気

- 屋根への断熱材利用、散水、石灰塗布、遮光ネット、細霧噴霧装置などにより鶏舎内温度を下げましょう!(特に夕日などの直射日光は、成鶏を熱射病で死亡させる原因になります)
- 換気扇、送風ダクトなどを利用し、鶏舎内の換気を促し体感温度と湿度の低下を図りましょう!(温度計を設置し、温度と湿度に注意しましょう)

#### ② 給水

- できるだけ新鮮な冷たい水を十分飲水できるようにしておきましょう。

#### ③ ストレス解消

- 除糞をこまめに行い、アンモニアなどの臭気の発生を防止してストレス解消に努めましょう!
- 飼養密度を下げることも効果的です!

#### ④ 飼料摂取時間の変更

午前中の給餌を停止したり、昼夜逆転照明により、舎内温度の上昇時間と鶏の発熱増加時間をずらす方法もあります。

行動をよく観察し、  
異常家畜の早期発見・対応をしましょう!!



# 消毒で、家畜伝染病を予防しましょう

家畜の病気の引き金には、**3つの要因**があります。

## ①体力の低下 ②環境の悪化 ③細菌やウイルスなどの病原体

今の季節に①②の要因を取り除くのが暑熱対策、③の要因を取り除くのがワクチン接種や病気の早期発見&治療です。そして**消毒**は、②環境中の病原体を低レベルにして、③踏み込み消毒槽などにより外部からの病原体の侵入を防ぎます。

家畜も夏バテで疲れています。消毒により、家畜の負担を減らしてあげてください！！

## ○石灰乳による畜舎消毒のすすめ

夏は暑いですが、畜舎を消毒した際、乾きやすい季節でもあります。  
長年の汚れを落としてみませんか？きっと子牛の下痢なども減りますよ。

- ①畜舎内の敷料と糞を出す（秋に向けてりっぱな堆肥を作りましょう）
- ②壁に付着した糞を除去する（金ヘラや高圧洗浄機で。つらいけどガンバレ！）
- ③スーパー箒などで残渣を除去する
- ④水か逆性石けんなどの消毒薬で床を洗浄、ワイパーで除水  
（水はけの悪い畜舎では省いても結構です）
- ⑤石灰乳を高いところから塗布していく（石灰：水は、およそ1：2）
- ⑥床面は消石灰散布でもOK
- ⑦床が乾いたらきれいな敷料を入れましょう

石灰乳を塗布すると、畜舎は見違えるほど明るくきれいになりますよ。

## ○病原体の侵入防止のため、下記のポイントについて再度チェックしてください

### <畜産農家のみなさんへ>

ポイント！ “病原体を持ち込まない”

- 農場出入口に「関係者以外立入禁止」の看板を設置していますか
- 入場車両の消毒を行っていますか
- 部外者の畜舎への入場を禁止していますか
- 畜舎内専用の衣服、履物などは清潔に保たれていますか
- 畜舎の入口に踏み込み消毒槽を設置していますか
- 消毒槽の消毒液は毎日交換していますか



### 島根県松江家畜保健衛生所

○本 所(島根県東部農林振興センター松江家畜衛生部)

〒 699-0109 松江市東出雲町錦浜 474-2

TEL : (0852)52-5230 公用携帯 : 080-1935-0883 FAX : (0852)52-3377

○隠岐支所(島根県隠岐支庁農林局家畜衛生部)

〒 685-0015 隠岐郡隠岐の島町港町塩口 24

TEL : (08512)2-9690 公用携帯 : 080-1935-0886 FAX : (08512)2-9657